クボデラ SDGs チャレンジ議事録①-２

SDGs 推進委員会 21 年３月

３月５日午後４時から SDGs 推進委員会「SDGs チャレンジ 2021」の第 1 回打ち合わせを行いました。社長による決意表明に続き、第 1 回ということで、事務局から SDGs の説明を中心に資料の読み込みをしました。
まだ、SDGs って何？という委員も少なくないと思います。決して難しいことに取り組んでいくのではなく、当社の身の丈に合った目標をこれから設定していきます。社長も言っていましたが、日本の昔からある商慣習「三方よし」が SDGs の原点です。私たちの SDGs は、この三方よしを積極的に内外にアピールしていくことだと思ってください。

当社は新たな市場への再上場を目指しています。大事業であり、現状のままで実現することは難しいかと思います。様々な手法で、さらなる企業価値の向上を目指す必要があります。そのための手法の一つとして SDGs に取り組むことが考えられます。今回、SDGs に取り組む最大のメリットは当社の企業価値向上です。

SDGs に取り組むことで企業価値は向上するのか、当然の疑問です。日々の事業のなかで売上高を増大させ、収益を拡大させれば十分との意見もあります。SDGs に取り組むことで増収増益が実現するのか？

おそらく、短期での増収増益にはなりません。しかし、当社が SDGs を宣言し、真剣に実践するということになれば、社員をはじめ当社のステークホルダー、即ち様々な利害関係者がプラス評価するでしょう。役職員はもとより、仕入れ・販売先、金融機関や監査法人、地方公共団体、国などの公共団体、NPO、地域社会からのプラス評価につながります。そうした評価は将来的な業績へのプラス要因となることはいうまでもありません。

国や地方公共団体を筆頭に、企業・諸団体のなかにも SDGs に基づいた活動を打ち出すケースが増えています。諸官庁は国の指示もあり、政策のなかに SDGs を反映させる時代となっています。企業においても先行して大半の金融機関が SDGs を事業活動に反映させるようになりました。

こうした時代の変化は、今後、SDGs が様々な場面における共通言語になると考えられ、当社が取り組むに足る要因の一つと言えます。

もっとかみ砕いて表現すると、SDGs に取り組むということは、時代を先取りしていることであり、「さすがはクボデラだ」と多くの関係者から評価していただけると思います。また、若世代からの評価は、今後の人材確保において重要な差別化材料となります。

企業価値向上ばかりで、社員にどのようなメリットがあるのかという疑問もありそうです。企業価値の向上を通じて収益性を高めることで、社員に還元できることが理想です。そのためにも役職員が共通の目標と同じ方向性をもって取り組むことが重要で、そうしたことの実現の先に当社の差別化と収益性の向上があると思います。

また、これからの活動いかんではありますが、若手社員のモチベーション向上にもつながれば企業活力の向上に寄与します。社外においても、SDGs という同じ言語を持つ仲間が増えてくることで新たな事業の創出につながることも期待されます。

SDGs では当社の活動を様々な角度から見直し、プラス、マイナス双方の評価を浮き彫りにしていきます。それにより、特にマイナス評価面の改善は今後の企業活動につながっていきます。社会的、法的リスクがあれば、具体的な改善の方策を考え、期限などを決めて解決していくことが SDGs の取り組みそのものです。

見方を換えて、SDGs に取り組まなければどうなるか。短期的には影響はないかもしれませんが、社内でこうした議論を重ね、共通した方向性を見出していく作業の蓄積は必ずやプラスになると信じています。当社は毎年、経営計画書を作成し、日々読み込みを行っています。SDGs チャレンジはこうした取り組みとも連動できるものだと思います。これらの諸点を、SDGs に取り組む当社の目的としてご理解ください。